

2020年農林業センサスから見た 奈良県農業の姿

1 はじめに

我が国の農林業の生産構造、就業構造及び農山村等の農林業をとりまく実態を明らかにするとともに、我が国の農林行政の推進に必要な基礎資料を整備することを目的として、農林水産省が5年ごとに「農林業センサス」調査を実施している。

全国ですべての農林業経営体等を対象とした調査であるため、農業版の国勢調査とも呼ばれるこの調査の直近分である「2020年農林業センサス」（調査基準日2020年2月1日）の確定値が2021年4月27日に公開され、2021年6月11日にはその訂正版も公開された。本稿ではこの2020年農林業センサスを基に、全国や近畿の値も適宜参照しながら、奈良県農業について概観する。

なお、2020年農林業センサスの主な変更点として、「調査対象の属性区分の変更」が挙げられる。2005年農林業センサスで「農業経営体」の概念が導入され、2015年調査までは、その農業経営体が「家族経営体」と「組織経営体」とに区分されていた。それが2020年調査では、「法人経営を一体的に捉える」との考え方のもと、「法人化している家族経営体（一戸一法人）」と「組織経営体」を統合して新たに『団体経営体』と定義し、「非法人の家族経営体」を新たに『個人経営体』と定義してそれぞれ集計する変更が行われた。

そこで本稿では、上記の定義に基づいて属性区分の数値を計算し、時系列で比較する際に連続性を持たせるように配慮した。

2 農林業経営体

全国の農林業経営体数（2020年2月1日現在）は109万2千経営体で、5年前に比べ31万2千経営体（▲22.2%）減少した（図表1）。このう

ち、農業経営体は107万6千経営体、林業経営体は3万4千経営体となり、5年前に比べそれぞれ30万2千経営体（▲21.9%）、5万3千経営体（▲61.0%）減少した。

奈良県の農林業経営体数は11,211経営体で、5年前に比べ2,729経営体（▲19.6%）減少した。このうち、農業経営体は10,858経営体、林業経営体は652経営体となり、5年前に比べそれぞれ2,433経営体（▲18.3%）、748経営体（▲53.4%）減少した。

農業経営体数と林業経営体数のこの5年間の減少率を見ると、全国平均および近畿平均よりも奈良県の減少率は若干緩やかだったとはいえ、それでも2015年調査時と比べれば、経営体数の減少に一層の拍車がかかっていることがわかる。

（図表1）農林業経営体数の推移

| | | 2010年 | 2015年 | 2020年 | 増減率 | |
|------------|-----|-----------|-----------|-----------|--------|--------|
| | | | | | 10-15年 | 15-20年 |
| | | 経営体 | 経営体 | 経営体 | % | % |
| 農林業 経営体 | 全国 | 1,726,751 | 1,404,488 | 1,092,250 | -18.7 | -22.2 |
| | 近畿 | 161,624 | 133,123 | 105,276 | -17.6 | -20.9 |
| | 奈良県 | 16,590 | 13,940 | 11,211 | -16.0 | -19.6 |
| 農業 経営体 | 全国 | 1,679,084 | 1,377,266 | 1,075,705 | -18.0 | -21.9 |
| | 近畿 | 155,482 | 130,179 | 103,835 | -16.3 | -20.2 |
| | 奈良県 | 15,276 | 13,291 | 10,858 | -13.0 | -18.3 |
| 林業 経営体 | 全国 | 140,186 | 87,284 | 34,001 | -37.7 | -61.0 |
| | 近畿 | 12,922 | 6,966 | 2,559 | -46.1 | -63.3 |
| | 奈良県 | 2,444 | 1,400 | 652 | -42.7 | -53.4 |

（注）農林業経営体とは、「農林産物の生産を行うか、または委託を受けて農林業作業を行い、生産や作業に係る面積・頭羽数が一定規模以上の者」をいう。基準は「経営耕地面積が30a以上の規模の農業」など。農業経営体と林業経営体の両方に当てはまる者がいるため、農林業経営体数は両者の単純合計ではない。

（出所）農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要（確定値）」

3 農業経営体

1. 全体の概要（農業構造の変化）

ここからは農業に関する事業を行う「農業経営体」について見る。まずは全体の概要として農業構造の変化を大づかみに確認し、次項以下で各項

目を詳しく確認していく（図表2）。

奈良県の農業経営体は、前述の通り5年前より▲18.3%減少しており、2015年調査の▲13.0%よりも減少スピードが増している。一方で、団体経営体は+3.5%、そのうちの法人経営体は+6.5%といずれも増加している。

販売農家と自給的農家を足した総農家で見ると、2015年から2020年にかけての増減率は▲14.2%（全国▲18.9%）と、前回よりも3.8ポイント（全国4.2ポイント）減少幅が大きくなっている。また、販売農家の増減率は▲17.9%（全国▲22.7%）で、前回よりも3.9ポイント（全国4.2ポイント）減少幅が大きくなっている。これらのことから、2015年調査時点よりもこの5年間で離農がかなり進んでいることがわかる。

普段仕事として主に自営農業に従事している基幹的農業従事者は▲18.2%（全国▲22.3%）と、2015年調査の▲19.2%（全国▲14.5%）に引き続いて2割近いマイナスとなっており、農業の担い手の減少傾向に歯止めがかかっていない。

一方で、経営耕地面積の減少幅は、全国▲6.3%、近畿▲7.8%、奈良県▲10.7%にとどまっており、離農した農家の農地が組織経営体や大規模農家などにある程度は引き継がれているであろうことがうかがえる。

また、借入耕地面積の増加率は全国+8.0%、近畿+8.8%、奈良県+6.1%とさほど高くはなく、新たに耕作放棄地が増えているであろうことも推察される（2020年調査では耕作放棄地面積の調査項目が削除されたため、同面積の実数値は把握できない）。

（図表2）農業経営体の基礎構造の変化

| 事業主体数 | 単位 | 2010年 | | | 2015年 | | | 2020年 | | | 増減率 10-15年 | | | 増減率 15-20年 | | |
|-------------|-----|-----------|---------|--------|-----------|---------|--------|-----------|---------|--------|---------------|-------|-------|---------------|-------|-------|
| | | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 |
| | | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | % | % | % | % | % | % |
| 農業経営体 | 経営体 | 1,679,084 | 155,482 | 15,276 | 1,377,266 | 130,179 | 13,291 | 1,075,705 | 103,835 | 10,858 | -18.0 | -16.3 | -13.0 | -21.9 | -20.2 | -18.3 |
| 個人経営体 | 経営体 | 1,643,518 | 152,844 | 15,151 | 1,339,964 | 127,374 | 13,121 | 1,037,342 | 100,831 | 10,682 | -18.5 | -16.7 | -13.4 | -22.6 | -20.8 | -18.6 |
| 団体経営体 | 経営体 | 35,566 | 2,638 | 125 | 37,302 | 2,805 | 170 | 38,363 | 3,004 | 176 | 4.9 | 6.3 | 36.0 | 2.8 | 7.1 | 3.5 |
| 法人経営体 | 経営体 | 21,627 | 1,136 | 90 | 27,101 | 1,543 | 138 | 30,707 | 1,986 | 147 | 25.3 | 35.8 | 53.3 | 13.3 | 28.7 | 6.5 |
| 総農家 | 戸 | 2,527,948 | 255,860 | 28,563 | 2,155,082 | 220,449 | 25,594 | 1,747,079 | 182,074 | 21,950 | -14.7 | -13.8 | -10.4 | -18.9 | -17.4 | -14.2 |
| 販売農家 | 戸 | 1,631,206 | 151,535 | 15,040 | 1,329,591 | 125,932 | 12,930 | 1,027,892 | 99,727 | 10,616 | -18.5 | -16.9 | -14.0 | -22.7 | -20.8 | -17.9 |
| 自給的農家 | 戸 | 896,742 | 104,325 | 13,523 | 825,491 | 94,517 | 12,664 | 719,187 | 82,347 | 11,334 | -7.9 | -9.4 | -6.4 | -12.9 | -12.9 | -10.5 |
| 家族農業労働力 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基幹的農業従事者 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (販売農家) | 人 | 2,051,437 | 137,330 | 16,085 | 1,753,764 | 121,849 | 12,996 | | | | -14.5 | -11.3 | -19.2 | | | |
| (個人経営体) | 人 | | | | | | | 1,363,038 | 105,838 | 10,628 | | | | -22.3 | -13.1 | -18.2 |
| 土地利用（農業経営体） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経営耕地面積 | ha | 3,631,585 | 163,528 | 13,081 | 3,451,444 | 154,925 | 11,796 | 3,232,882 | 142,779 | 10,528 | -5.0 | -5.3 | -9.8 | -6.3 | -7.8 | -10.7 |
| 田 | ha | 2,046,267 | 131,503 | 9,487 | 1,947,029 | 125,055 | 8,424 | 1,784,900 | 114,511 | 7,290 | -4.8 | -4.9 | -11.2 | -8.3 | -8.4 | -13.5 |
| 畑 | ha | 1,371,521 | 9,299 | 1,101 | 1,315,767 | 8,793 | 1,040 | 1,288,829 | 9,709 | 1,204 | -4.1 | -5.4 | -5.5 | -2.0 | 10.4 | 15.8 |
| 樹園地 | ha | 213,797 | 22,727 | 2,494 | 188,648 | 21,077 | 2,331 | 159,154 | 18,559 | 2,035 | -11.8 | -7.3 | -6.5 | -15.6 | -11.9 | -12.7 |
| 借入耕地面積 | ha | 1,063,139 | 51,911 | 2,526 | 1,164,135 | 59,218 | 2,665 | 1,257,126 | 64,449 | 2,828 | 9.5 | 14.1 | 5.5 | 8.0 | 8.8 | 6.1 |

（注）個人経営体…「個人（世帯）で事業を行う経営体（法人化して事業を行う経営体は含まない）」。団体経営体…「個人経営体以外の経営体」。販売農家…「経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家」。自給的農家…「経営耕地面積が30a未満かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家」。基幹的農業従事者…「15歳以上の世帯員のうち、普段仕事として主に自営農業に従事している者」。経営耕地…「調査期日現在で農林業経営体が経営している耕地（けい畔を含む田、樹園地及び畑）をいい、自ら所有し耕作している耕地（自作地）と、他から借りて耕作している耕地（借入耕地）の合計」。樹園地…「木本性周年作物を規則的又は連続的に栽培している土地で果樹、茶、桑などが1a以上まとまっているもの（一定の畝幅及び株間を持ち、前後左右に連続して栽培されていることをいう）で肥培管理している土地」。借入耕地…「他から借りて耕作している耕地」。法人経営体は、2010年および2015年の調査では、「法人組織経営体」と「家族経営体のうち法人経営のもの」を合計した値に該当する。個人経営体は、2010年および2015年の調査では、「法人化していない家族経営体」の値に該当する。

（出所）農林水産省「2020年農林業センサ結果の概要（確定値）」

2. 農業経営体数

全国の農業経営体のうち、個人経営体は103万7千経営体で、5年前に比べ30万3千経営体(▲22.6%)減少した一方、団体経営体は3万8千経営体で1千経営体(+2.8%)増加した(図表3)。団体経営体のうち法人経営体は3万1千経営体で、5年前に比べ4千経営体(+13.3%)増加した。

また、法人経営体の内訳をみると、農事組合法人は7千経営体、会社法人は2万経営体となり、5年前に比べ、それぞれ1千経営体(+18.2%)、3千経営体(+20.5%)増加した。

奈良県の農業経営体のうち、個人経営体は10,682経営体で、5年前に比べ2,439経営体(▲18.6%)減少した一方、団体経営体は176経営体で6経営体(+3.5%)増加した。団体経営体のうち法人経営体は147経営体で、5年前に比べ9経営体(+6.5%)増加した。また、法人経営体の内訳をみると、農事組合法人は28経営体、会社法人は85経営体となり、5年前に比べそれ

ぞれ6経営体(+27.3%)、18経営体(+26.9%)増加した。

全国および近畿と比較すると、奈良県における農事組合法人や会社法人の増加率は全国平均よりは高いが、近畿平均よりは低かった。

3. 経営耕地面積規模別の農業経営体数

経営耕地面積規模別に農業経営体数の増減率を見ると、5年前に比べ、全国では10ha以上層で、近畿と奈良県では5ha以上層で農業経営体数が増加した(図表4)。

なお奈良県は20~30haでも減少しているが、20ha以上の農業経営体の合計数自体は、2010年4経営体⇒2015年7経営体⇒2020年9経営体と着実に増加しており、経営体の規模拡大は、全国と同じく奈良県でも進展しているといえる。

4. 経営耕地の状況

経営耕地の用途ごとに状況を見ると、5年前に比べ、経営耕地総面積は全国▲6.3%、近畿▲7.8

(図表3) 農業経営体の組織形態別の経営体数の推移

| | 2010年 | | | 2015年 | | | 2020年 | | | 増減率 10-15年 | | | 増減率 15-20年 | | |
|-------------|-----------|---------|--------|-----------|---------|--------|-----------|---------|--------|---------------|-------|-------|---------------|-------|--------|
| | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 |
| | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | 経営体 | % | % | % | % | % | % |
| 農業経営体 | 1,679,084 | 155,482 | 15,276 | 1,377,266 | 130,179 | 13,291 | 1,075,705 | 103,835 | 10,858 | -18.0 | -16.3 | -13.0 | -21.9 | -20.2 | -18.3 |
| 個人経営体 | 1,643,518 | 152,844 | 15,151 | 1,339,964 | 127,374 | 13,121 | 1,037,342 | 100,831 | 10,682 | -18.5 | -16.7 | -13.4 | -22.6 | -20.8 | -18.6 |
| 団体経営体 | 35,566 | 2,638 | 125 | 37,302 | 2,805 | 170 | 38,363 | 3,004 | 176 | 4.9 | 6.3 | 36.0 | 2.8 | 7.1 | 3.5 |
| 法人経営体 | 21,627 | 1,136 | 90 | 27,101 | 1,543 | 138 | 30,707 | 1,986 | 147 | 25.3 | 35.8 | 53.3 | 13.3 | 28.7 | 6.5 |
| 農業経営体 | 1,679,084 | 155,482 | 15,276 | 1,377,266 | 130,179 | 13,291 | 1,075,705 | 103,835 | 10,858 | -18.0 | -16.3 | -13.0 | -21.9 | -20.2 | -18.3 |
| 法人化している経営体 | 21,627 | 1,136 | 90 | 27,101 | 1,543 | 138 | 30,707 | 1,986 | 147 | 25.3 | 35.8 | 53.3 | 13.3 | 28.7 | 6.5 |
| 農事組合法人 | 4,049 | 265 | 19 | 6,199 | 462 | 22 | 7,329 | 628 | 28 | 53.1 | 74.3 | 15.8 | 18.2 | 35.9 | 27.3 |
| 会社法人 | 12,984 | 565 | 32 | 16,573 | 796 | 67 | 19,977 | 1,151 | 85 | 27.6 | 40.9 | 109.4 | 20.5 | 44.6 | 26.9 |
| その他の法人 | 4,594 | 306 | 39 | 4,329 | 285 | 49 | 3,401 | 207 | 34 | -5.8 | -6.9 | 25.6 | -21.4 | -27.4 | -30.6 |
| 地方公共団体・財産区 | 337 | 8 | 1 | 228 | 7 | 1 | 144 | 4 | - | -32.3 | -12.5 | 0.0 | -36.8 | -42.9 | -100.0 |
| 法人化していない経営体 | 1,657,120 | 154,338 | 15,185 | 1,349,937 | 128,629 | 13,152 | 1,044,854 | 101,845 | 10,711 | -18.5 | -16.7 | -13.4 | -22.6 | -20.8 | -18.6 |
| 個人経営体 | 1,643,518 | 152,844 | 15,151 | 1,339,964 | 127,374 | 13,121 | 1,037,342 | 100,831 | 10,682 | -18.5 | -16.7 | -13.4 | -22.6 | -20.8 | -18.6 |

(注) 個人経営体…「個人(世帯)で事業を行う経営体(法人化して事業を行う経営体は含まない)」。団体経営体…「個人経営体以外の経営体」。農事組合法人…「農業協同組合法に基づき、組合員の農業生産についての協業を図ることによりその共同の利益を増進することを目的として設立された法人」。法人経営体は、2010年および2015年の調査では、「法人組織経営体」と「家族経営体のうち法人経営のもの」を合計した値に該当する。個人経営体は、2010年および2015年の調査では、「法人化していない家族経営体」の値に該当する。

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要(確定値)」

%、奈良県▲10.7%と、奈良県の経営耕地面積の減少率が大きい(図表5)。中でも奈良県の田の経営耕地面積は▲13.5%と特に落ち込みが大きい。一方、畑は+15.8%と増加している。

1経営体当たりの耕地面積は、全国+22.3%、近畿+16.8%、奈良県+11.9%といずれも増加しており、耕地の集積度合いは、2015年までの5年間よりもスピードが進んでいることがわかる。

また、全国では樹園地の面積が▲15.6%と大きく減少しているが、果樹栽培は手間がかかり労働力を多く必要とするため、担い手の高齢化に伴う栽培面積減少も進みやすいといえる。

5. 経営耕地面積の集積割合

農業経営体の経営耕地面積規模別に経営耕地面積の集積割合を見ると、全国では10ha以上の農業経営体が55.3%を占め、5年前に比べて7.7ポイント上昇した(図表6)。

一方、奈良県では10ha以上の農業経営体は7.3%に過ぎず、1ha未満が42.8%と大部分を占める。奈良県では比較的小さい面積の経営耕地が多いことがわかる。

(図表4) 経営耕地面積規模別の農業経営体数

(単位:経営体、%)

| 2020年 | | 1ha未満 | 1~5 | 5~10 | 10~20 | 20~30 | 30~50 | 50~100 | 100ha以上 |
|----------------------|-----|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 全国 | | 565,507 | 406,582 | 48,454 | 25,777 | 10,859 | 10,103 | 6,490 | 1,933 |
| 近畿 | | 70,205 | 30,072 | 1,882 | 1,001 | 343 | 223 | 91 | 18 |
| 奈良県 | | 8,236 | 2,413 | 166 | 34 | 2 | 5 | 2 | 0 |
| 増減率 10~15年 (%) | 全国 | -20.5 | -17.7 | 0.1 | 7.2 | 5.1 | 4.4 | 4.5 | 30.3 |
| | 近畿 | -18.4 | -13.2 | 11.7 | 38.8 | 25.1 | 67.7 | 100.0 | 83.3 |
| | 奈良県 | -14.3 | -9.2 | 6.8 | 43.8 | 150.0 | 0.0 | 0.0 | - |
| 増減率 15~20年 (%) | 全国 | -23.7 | -23.4 | -7.2 | 1.5 | 5.5 | 7.7 | 6.0 | 21.6 |
| | 近畿 | -22.3 | -17.9 | 1.4 | 13.4 | 29.9 | 42.9 | 56.9 | 63.6 |
| | 奈良県 | -20.0 | -14.5 | 17.7 | 47.8 | -60.0 | 400.0 | 100.0 | - |

(注) 経営耕地…「調査期日現在で農林業経営体が経営している耕地(けい畔を含む田、樹園地及び畑)をいい、自ら所有し耕作している耕地(自作地)と、他から借りて耕作している耕地(借入耕地)の合計」。なお、土地台帳の地目や面積に関係なく、実際の地目別の面積を調査している。

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要(確定値)」

(図表5) 経営耕地の状況(農業経営体)

(単位:経営体、%)

| 2020年 | 経営耕地のある経営体数 | 経営耕地の総面積 | 田 | | 畑 | | 樹園地 | | 1経営体当たりの耕地面積 | |
|----------------------|-------------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|------------|---------|--------------|------|
| | | | 田のある経営体数 | 経営耕地面積 | 畑のある経営体数 | 経営耕地面積 | 樹園地のある経営体数 | 経営耕地面積 | | |
| | | | 経営体 | ha | 経営体 | ha | 経営体 | ha | | |
| 全国 | 1,058,754 | 3,232,882 | 840,381 | 1,784,900 | 560,784 | 1,288,829 | 200,229 | 159,154 | 3.10 | |
| 近畿 | 102,895 | 142,779 | 88,327 | 114,511 | 38,207 | 9,709 | 21,466 | 18,559 | 1.40 | |
| 奈良県 | 10,800 | 10,528 | 9,739 | 7,290 | 4,975 | 1,204 | 1,704 | 2,035 | 1.00 | |
| 増減率 10~15年 (%) | 全国 | -18.1 | -5.0 | -20.1 | -4.8 | -22.6 | -4.1 | -19.1 | -11.8 | 16.0 |
| | 近畿 | -16.2 | -5.3 | -17.9 | -4.9 | -20.9 | -5.4 | -15.5 | -7.3 | 13.1 |
| | 奈良県 | -13.2 | -9.8 | -14.7 | -11.2 | -13.9 | -5.5 | -22.4 | -6.5 | 3.9 |
| 増減率 15~20年 (%) | 全国 | -22.2 | -6.3 | -26.6 | -8.3 | -32.8 | -2.0 | -26.1 | -15.6 | 22.3 |
| | 近畿 | -20.4 | -7.8 | -23.7 | -8.4 | -27.6 | 10.4 | -21.5 | -11.9 | 16.8 |
| | 奈良県 | -18.2 | -10.7 | -20.1 | -13.5 | -24.4 | 15.8 | -24.0 | -12.7 | 11.9 |

(注) 樹園地…「木本性周年作物を規則的又は連続的に栽培している土地で果樹、茶、桑などが1a以上まとまっているもの(一定の畝幅及び株間を持ち、前後左右に連続して栽培されていることをいう)で肥培管理している土地」。花木類などを5年以上栽培している土地もここに含まれる。なお、樹園地に間作(育てている作物の間に他の作物を栽培すること)をしている場合は、利用面積により普通畑と樹園地に分けて計上されている。

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要(確定値)」

(図表6) 経営耕地面積の集積割合の推移(農業経営体)

(単位:%、ポイント)

| 2020年 | | 1.0ha未満 | 1.0~5.0 | 5.0~10.0 | 10.0ha以上 | 5.0ha以上 |
|-------------------------|-----|---------|---------|----------|----------|---------|
| 全国 | | 9.4 | 25.1 | 10.2 | 55.3 | 65.5 |
| 近畿 | | 26.8 | 37.1 | 9.0 | 27.2 | 36.2 |
| 奈良県 | | 42.8 | 39.8 | 10.1 | 7.3 | 17.4 |
| 増減幅 10~15年 (ポイント) | 全国 | -2.5 | -4.0 | 0.6 | 5.9 | 6.5 |
| | 近畿 | -5.4 | -2.7 | 1.3 | 6.8 | 8.1 |
| | 奈良県 | -3.7 | 1.1 | 1.2 | 1.5 | 2.6 |
| 増減幅 15~20年 (ポイント) | 全国 | -2.5 | -5.1 | -0.1 | 7.7 | 7.6 |
| | 近畿 | -5.4 | -3.6 | 0.9 | 8.1 | 9.0 |
| | 奈良県 | -4.7 | -1.0 | 2.7 | 3.0 | 5.7 |

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要(確定値)」

(図表 7) 農産物販売金額規模別の農業経営体数

| 2020年 | | 合計 | 販売なし | 販売額 50万円未満 | 50～ 100万円 | 100～ 500万円 | 500～ 1,000万円 | 1,000～ 3,000万円 | 3,000～ 5,000万円 | 5,000～ 1億円 | 1億円以上 |
|----------------------|-----|-----------|--------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-------------------|-------------------|---------------|-------|
| 全国 | | 1,075,705 | 97,495 | 287,122 | 175,832 | 296,243 | 91,764 | 86,145 | 20,122 | 13,120 | 7,862 |
| 近畿 | | 103,835 | 13,456 | 37,664 | 17,989 | 22,911 | 6,087 | 4,437 | 659 | 377 | 255 |
| 奈良県 | | 10,858 | 1,693 | 4,564 | 2,022 | 1,619 | 444 | 365 | 79 | 48 | 24 |
| 増減率 10-15年 (%) | 全国 | -18.0 | -23.5 | -11.0 | -26.6 | -23.1 | -14.8 | -9.7 | 0.7 | 12.5 | 17.4 |
| | 近畿 | -16.3 | -23.8 | -11.3 | -25.9 | -17.5 | -7.6 | -4.8 | -0.4 | 11.4 | 7.5 |
| | 奈良県 | -13.0 | -11.0 | -7.6 | -26.9 | -20.7 | -11.2 | -2.9 | 5.5 | 45.2 | 25.0 |
| 増減率 15-20年 (%) | 全国 | -21.9 | -26.2 | -39.0 | -16.8 | -13.0 | -5.8 | -4.5 | 9.7 | 25.5 | 20.0 |
| | 近畿 | -20.2 | -16.8 | -33.8 | -8.3 | -10.6 | -8.4 | 5.6 | 30.8 | 28.7 | 19.2 |
| | 奈良県 | -18.3 | -18.9 | -30.5 | 9.4 | -6.7 | -15.1 | -10.5 | 36.2 | 6.7 | 20.0 |

(注) 農産物販売金額とは、「肥料代、農薬代、飼料代等の諸経費を差引く前の売上金額（消費税を含む）」をいう。

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサ結果の概要（確定値）」

6. 農産物販売金額規模別の農業経営体数

農産物販売金額規模別に農業経営体数の増減率を見ると、5年前に比べ、全国と奈良県では3,000万円以上で、近畿では1,000万円以上で農業経営体数が増加した（図表7）。このことから、農産物販売金額規模の大きな農業経営体が存在感を増してきていることがわかる。

7. 農産物販売金額1位の出荷先別に見た農業経営体数

農産物販売金額1位の出荷先別に農業経営体数の構成割合をみると、全国では「農協」が64.3%と最多で、次いで「農協以外の集出荷団体」が9.7%、「消費者に直接販売」が9.0%となった（図表8）。また、5年前に比べ「農協」が1.9ポイント下降し、「農協以外の集出荷団体」が1.0ポイント、「小売業者」が0.5ポ

イントそれぞれ上昇した。

奈良県では、「農協」47.2%（2015年比+0.6ポイント）が最多なのは同じだが、次に「消費者に直接販売」20.6%（同+1.8ポイント）、「小売業者」9.5%（+0.1ポイント）と続くのが特徴である。

消費者への直接販売をうまくコントロールして、農業経営体自身が価格決定権を握って消費者との長期的な関係の構築につなげることができれば、付加価値や生産性の向上につながる可能性がある。

(図表 8) 農産物販売金額1位の出荷先別に見た農業経営体の状況

| 2020年 | 農産物の販売の あつた経営体 | 農産物販売金額1位の出荷先別 | | | | | | |
|-------------------------|-------------------|----------------|--------------------|------|------|--------------------|--------------|------|
| | | 農協 | 農協以外 の集出荷 団体 | 卸売市場 | 小売業者 | 食品製造 業・外食 産業 | 消費者に 直接販売 | その他 |
| 全国 | 100.0 | 64.3 | 9.7 | 6.4 | 5.3 | 1.6 | 9.0 | 3.8 |
| 近畿 | 100.0 | 59.9 | 7.3 | 5.6 | 6.1 | 1.6 | 13.6 | 5.9 |
| 奈良県 | 100.0 | 47.2 | 6.2 | 7.1 | 9.5 | 1.2 | 20.6 | 8.2 |
| 増減幅 10-15年 (ポイント) | 全国 | -1.0 | -0.5 | 0.4 | 0.6 | 0.7 | -1.3 | 1.1 |
| | 近畿 | -2.1 | -0.1 | -0.2 | 0.5 | 0.6 | -3.4 | 4.7 |
| | 奈良県 | -2.7 | -0.4 | -0.4 | -0.5 | 0.2 | -3.8 | 7.6 |
| 増減幅 15-20年 (ポイント) | 全国 | -1.9 | 1.0 | 0.0 | 0.5 | 0.1 | 0.2 | 0.1 |
| | 近畿 | -1.0 | 1.2 | -0.2 | 0.7 | 0.0 | 0.1 | -0.8 |
| | 奈良県 | 0.6 | 0.1 | -1.0 | 0.1 | 0.4 | 1.8 | -2.0 |

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサ結果の概要（確定値）」

8. 有機農業の取組状況

今回調査で新設された設問の一つで、有機農業に取り組んでいる経営体の取組品目別の「作付（栽培）経営体数」と「作付（栽培）面積」が尋ねられている（図表9）。

この設問によると、有機農業に取り組んでいる経営体数の全体に占める割合は、全国6.4%、近畿7.3%、奈良県5.9%と、いずれもまだ1割に満たない。奈良県の状況を見ると、有機農業に取り組んでいる品目（複数品目への取組もあり）では、「水稻」が経営体数（3.1%）と面積（54.8%）の両方で最多となっている。奈良県の特徴として、果樹の有機農業の栽培面積が24.3%と、全国8.4%や近畿9.8%と比べてかなり割合が大きいことが挙げられる。

9. 青色申告を行っている農業経営体数

これも今回調査で新設された設問の一つで、青色申告の実施の有無、

正規の簿記や簡易簿記等の区別などが尋ねられている（図表10）。

この設問によると、青色申告を行っている農業経営体の全体に占める割合は、全国35.5%、近畿32.7%、奈良県28.4%と、奈良県の比率が全国や近畿に比べ低い。正規の簿記を行っている経営体も、奈良県は12.5%と低い。これには、奈良県には事業規模があまり大きくない農業経営体が多いということも関係している可能性がある。

（図表10）青色申告を行っている農業経営体数

（単位：経営体、%）

| 2020年 | 計 | 青色申告を行っている経営体 | | | | 青色申告を行っていない経営体 |
|-------|-----------|---------------|---------|---------|--------|----------------|
| | | 小計 | 正規の簿記 | 簡易簿記 | 現金主義 | |
| 全国 | 1,075,705 | 382,037 | 207,771 | 145,428 | 28,838 | 693,668 |
| 近畿 | 103,835 | 33,973 | 15,749 | 15,023 | 3,201 | 69,862 |
| 奈良県 | 10,858 | 3,080 | 1,357 | 1,356 | 367 | 7,778 |
| 全国 | 100.0 | 35.5 | 19.3 | 13.5 | 2.7 | 64.5 |
| 近畿 | 100.0 | 32.7 | 15.2 | 14.5 | 3.1 | 67.3 |
| 奈良県 | 100.0 | 28.4 | 12.5 | 12.5 | 3.4 | 71.6 |

（注）青色申告…「不動産所得、事業所得、山林所得のある人で、納税地の所轄税務署長の承認を受けた人が確定申告を行う際に、一定の帳簿を備え付け、日々の取引を記帳し、その記録に基づいて申告する制度」。正規の簿記…「損益計算書と貸借対照表が導き出せる組織的な簿記の方式（一般的には複式簿記）を行っている場合」。簡易簿記…「正規の簿記以外の簡易な帳簿による記帳を行っている場合」。現金主義…「現金主義による所得計算の特例を受けている場合」。

（出所）農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要（確定値）」

（図表9）有機農業に取り組んでいる経営体の取組品目別作付（栽培）経営体数と作付（農業経営体）

| 2020年 | 計 | 有機農業に取り組んでいる | | | | | | | | | | 有機農業に取り組んでいない | | |
|-------|-------------|--------------|----------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|---------------|--------|-----------|
| | | 計 | | 水稻 | | 大豆 | | 野菜 | | 果樹 | | | その他 | |
| | | 作付（栽培）実経営体数 | 作付（栽培）面積 | 経営体数 | 面積 | 経営体数 | 面積 | 経営体数 | 面積 | 経営体数 | 面積 | | 経営体数 | 面積 |
| 経営体 | 経営体 | ha | 経営体 | ha | 経営体 | ha | 経営体 | ha | 経営体 | ha | 経営体 | ha | 経営体 | |
| 全国 | 1,075,705 | 69,309 | 115,269 | 35,244 | 60,624 | 2,862 | 5,122 | 24,647 | 18,435 | 12,750 | 9,630 | 6,598 | 21,458 | 1,006,396 |
| 近畿 | 103,835 | 7,589 | 8,860 | 4,816 | 6,284 | 534 | 464 | 2,220 | 700 | 1,140 | 869 | 546 | 543 | 96,246 |
| 奈良県 | 10,858 | 646 | 544 | 341 | 298 | 19 | 6 | 208 | 55 | 131 | 132 | 63 | 54 | 10,212 |
| 全国 | 全体に占める割合（%） | 6.4 | 100.0 | 3.3 | 52.6 | 0.3 | 4.4 | 2.3 | 16.0 | 1.2 | 8.4 | 0.6 | 18.6 | 93.6 |
| 近畿 | | 7.3 | 100.0 | 4.6 | 70.9 | 0.5 | 5.2 | 2.1 | 7.9 | 1.1 | 9.8 | 0.5 | 6.1 | 92.7 |
| 奈良県 | | 5.9 | 100.0 | 3.1 | 54.8 | 0.2 | 1.1 | 1.9 | 10.1 | 1.2 | 24.3 | 0.6 | 9.9 | 94.1 |

（注）有機農業…「化学肥料及び農薬を使用せず、遺伝子組換え技術も利用しない農業のことで、減化学肥料・減農薬栽培は含まない。また、自然農法に取り組んでいる場合や有機JASの認証を受けていない方でも、化学肥料及び農薬を使用せず、遺伝子組換え技術も利用しない農業に取り組んでいる場合を含む」。

（出所）農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要（確定値）」

10. データを活用した農業を行っている農業経営体数

これも今回調査で新設された設問の一つで、農業経営へのデータ活用の状況が尋ねられている(図表11)。

この設問によると、データを活用した農業を行っている農業経営体の全体に占める割合は、全国17.0%、近畿15.1%、奈良県11.9%と、奈良県の比率はかなり低い。農業従事者の高齢化や人材不足が指摘される中、農業の生産性を向上させるためには「スマート農業」などのデータを活用した農業は喫緊の課題であり、今後はこの比率が奈良県でも向上することが望まれる。

(図表11) データを活用した農業を行っている農業経営体数

| 2020年 | 計 | データを活用した農業を行っている経営体 | | | | データを 活用した 農業を 行っていない経営 体 |
|-------|-----------|---------------------|--------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------------------|
| | | 小計 | データを 取得して 活用 | データを 取得・記 録して活 用 | データを 取得・分 析して活 用 | |
| 全国 | 1,075,705 | 182,594 | 108,886 | 61,751 | 11,957 | 893,111 |
| 近畿 | 103,835 | 15,723 | 9,121 | 5,779 | 823 | 88,112 |
| 奈良県 | 10,858 | 1,291 | 786 | 441 | 64 | 9,567 |
| 全国 | 100.0 | 17.0 | 10.1 | 5.7 | 1.1 | 83.0 |
| 近畿 | 100.0 | 15.1 | 8.8 | 5.6 | 0.8 | 84.9 |
| 奈良県 | 100.0 | 11.9 | 7.2 | 4.1 | 0.6 | 88.1 |

(注) 農業経営を行うためにデータを活用するとは、「効率的かつ効果的な農業経営を行うためにデータ(財務、市況、生産履歴、生育状況、気象状況、栽培管理などの情報)を活用すること」をいう。

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要(確定値)」

11. 主副業別農業経営体数(個人経営体)

農業経営体のうち個人経営体を主副業別に見ると、主業経営体が個人経営体全体に占める割合は、全国22.3%、近畿14.5%、奈良県12.3%と、相対的に見て奈良県では主業経営体が少ない(図表12)。その中でも65歳未満の農業専従者がいる経営体は、全国19.4%、近畿12.1%、奈良県10.2%となっている。

(図表12) 主副業別農業経営体数(個人経営体)

| 2020年 | 計 | 主業経営体 | | 準主業経営体 | | 副業的経営体 | |
|-------|----------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | | 65歳未満 の農業専 従者がい る | 65歳未満 の農業専 従者がい る | 65歳未満 の農業専 従者がい る | 65歳未満 の農業専 従者がい る | 65歳未満 の農業専 従者がい る | 65歳未満 の農業専 従者がい る |
| 全国 | 1,037,342 | 230,855 | 201,514 | 142,538 | 56,007 | 663,949 | |
| 近畿 | 100,831 | 14,589 | 12,244 | 14,310 | 5,190 | 71,932 | |
| 奈良県 | 10,682 | 1,315 | 1,089 | 1,406 | 467 | 7,961 | |
| 全国 | 2015年 全体に 占める 割合 (%) | 22.1 | 19.0 | 19.3 | 7.1 | 58.6 | |
| 近畿 | 100.0 | 14.4 | 11.9 | 17.5 | 6.0 | 68.1 | |
| 奈良県 | 100.0 | 13.0 | 10.5 | 16.9 | 5.9 | 70.1 | |
| 全国 | 2020年 全体に 占める 割合 (%) | 22.3 | 19.4 | 13.7 | 5.4 | 64.0 | |
| 近畿 | 100.0 | 14.5 | 12.1 | 14.2 | 5.1 | 71.3 | |
| 奈良県 | 100.0 | 12.3 | 10.2 | 13.2 | 4.4 | 74.5 | |

(注) 主業経営体…「農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体」。準主業経営体…「農外所得が主(世帯所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体」。副業的経営体…「調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体」。

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要(確定値)」

12. 基幹的農業従事者数(個人経営体)

農業経営体のうち個人経営体の基幹的農業従事者(普段仕事として主に自営農業に従事している者)は、全国が136万3千人で、5年前に比べ39万1千人(▲22.3%)減少した(図表13)。個人経営体の基幹的農業従事者のうち65歳以上が占める割合は、69.6%となり、5年前に比べ5.0ポイント上昇した。

奈良県の基幹的農業従事者は10,628人で、5年前に比べ2,368人(▲18.2%)減少した。個人経営体の基幹的農業従事者のうち65歳以上が占める割合は、76.5%となり、5年前に比べ6.2ポイント上昇した。

基幹的農業従事者の平均年齢は全国が67.8歳(2015年比+0.8歳)、近畿69.2歳(同+1.2歳)、奈良県69.5歳(同+0.8歳)で、全国的に着実に高齢化が進展している。40歳未満は全国4.9%、近畿3.5%、奈良県3.6%しかおらず、65歳以上は、一部くり返しになるが全国69.6%、近畿74.3%、奈良県76.5%である。2025年には団塊世代

(図表 13) 年齢別基幹的農業従事者数 (個人経営体)

(単位:人、歳、%)

| 男女計 | 2015年 | | | 2020年 | | | 増減数 10-15年 | | | 増減数 15-20年 | | |
|--------|-----------|---------|--------|-----------|---------|--------|---------------|---------|--------|---------------|---------|--------|
| | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 | 全国 | 近畿 | 奈良県 |
| 計 | 1,753,764 | 121,849 | 12,996 | 1,363,038 | 105,838 | 10,628 | -297,673 | -15,481 | -3,089 | -390,726 | -16,011 | -2,368 |
| 15~39歳 | 85,680 | 4,570 | 451 | 66,535 | 3,673 | 378 | -10,362 | -490 | -30 | -19,145 | -897 | -73 |
| 40~49 | 91,814 | 5,840 | 499 | 80,933 | 5,338 | 436 | -28,957 | -1,044 | -168 | -10,881 | -502 | -63 |
| 50~59 | 202,122 | 12,256 | 1,099 | 126,902 | 8,521 | 764 | -107,565 | -4,977 | -661 | -75,220 | -3,735 | -335 |
| 60~64 | 242,076 | 15,807 | 1,811 | 140,047 | 9,668 | 924 | -29,384 | -2,884 | -266 | -102,029 | -6,139 | -887 |
| 65歳以上 | 1,132,072 | 83,376 | 9,136 | 948,621 | 78,638 | 8,126 | -121,405 | -6,086 | -1,964 | -183,451 | -4,738 | -1,010 |
| 平均年齢 | 67.0 | 68.0 | 68.7 | 67.8 | 69.2 | 69.5 | 0.9 | 0.5 | -0.1 | 0.8 | 1.2 | 0.8 |
| | 構成比(%) | | | | | | 増減率(%) | | | | | |
| 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | -14.5 | -11.3 | -19.2 | -22.3 | -13.1 | -18.2 |
| 15~39歳 | 4.9 | 3.8 | 3.5 | 4.9 | 3.5 | 3.6 | -10.8 | -9.7 | -6.2 | -22.3 | -19.6 | -16.2 |
| 40~49 | 5.2 | 4.8 | 3.8 | 5.9 | 5.0 | 4.1 | -24.0 | -15.2 | -25.2 | -11.9 | -8.6 | -12.6 |
| 50~59 | 11.5 | 10.1 | 8.5 | 9.3 | 8.1 | 7.2 | -34.7 | -28.9 | -37.6 | -37.2 | -30.5 | -30.5 |
| 60~64 | 13.8 | 13.0 | 13.9 | 10.3 | 9.1 | 8.7 | -10.8 | -15.4 | -12.8 | -42.1 | -38.8 | -49.0 |
| 65歳以上 | 64.6 | 68.4 | 70.3 | 69.6 | 74.3 | 76.5 | -9.7 | -6.8 | -17.7 | -16.2 | -5.7 | -11.1 |

(注) 基幹的農業従事者…「15歳以上の世帯員のうち、普段仕事として主に自営農業に従事している者」。なお、調査対象の属性区分が変更されたため、2020年は「個人経営体」、2010年と2015年は「経営農家」の値を集計しており、両者の値には若干のずれが生じている。

(出所) 農林水産省「2020年農林業センサス結果の概要(確定値)」

が全員75歳以上となり、体力的な面から農業の担い手がさらに激減することが予測され、危機感を持って対応する必要がある。

4 おわりに

ここまで見てきたとおり、農業経営体数の減少が続く中、一方では法人化や規模拡大がある程度進展している。しかし、高齢化に伴う農業の担い手の減少は全国的に喫緊の懸案事項となっており、法人化や規模拡大が進んでいるからといって農地が必ずしも全て維持されるわけではなく、耕作放棄地も引き続き全国的に発生しているとみられる。農地の引き受け手が少ない地域で、高齢化した農家が離農する場合、その農地を周囲で全て引き受けきれないという問題も当然多く起こってくるだろう。

これまでの国の施策は、「農地の維持・集約」、「既存農業経営者の支援」、「新規就農者の支援

(増加)」といった柱に基づいて展開されてきたが、今後さらに、農業従事者および農業経営者が高齢化して規模縮小や廃業を選択するケースが増加することが見込まれる中、新規就農に関する抜本的なてこ入れ策を検討する必要があると考える。

加えて、省人化や効率化、生産性向上を図る打ち手として、IoTなどを活用するスマート農業の本格的な普及拡大も急ぐ必要がある。

また同時に、兼業農家や「半農半^{エックス}X」(自分や家族が食べる分の食料は自分たちでまかない、残りの時間は自分のやりたいことや仕事に費やす生活様式)など、法人化や大規模化とは違う方向性の小規模な農業についても、適切な政策的支援を行いながら、農業の担い手の若返りと多様化、そして生産性向上につなげていくことが求められよう。

(吉村謙一)